

舞鶴市長
多々見 良三



建築家
嶋田 宣彦

市長対談

converse with...

夢を持つこと、 自分を信じて進む...

今回は、イタリア・ミラノで活躍されている建築家の嶋田宣彦さんをお迎えしました。今年7月にイタリアを訪問し、クルーズ客船の舞鶴寄港や国際博物館会議の分科会の誘致活動を行った多々見市長。そんな時に、ミラノで建築家をされている舞鶴出身者がいると伺ったので、対談をお願いしました。「早いうちから夢を持って、それに向かって進んで欲しい」と日ごろから舞鶴の子ども達にメッセージを届けている多々見市長が、なぜ建築家を目指したのか、イタリアに行ったきっかけなどを嶋田さんに伺いました。



2016

9
Vol.967

MAIZURU
広報まいづる

index

- 2 市長対談 夢を持つこと、自分を信じて進む...
- 6 防災特集 災害から地域を守る!!
- 8 シリーズ市政の「今」 防災機能の充実・強化で安全・安心なまちづくり
- 10 MAIZURU TOPICS
- 11 総合文化祭 市内各所で開催
- 12 市政情報BOX

市内学校めぐり

- 14 聖ヨゼフ学園 日星高等学校 舞鶴医療センター附属看護学校
- 18 子ども版「広報まいづる」 舞鶴っ子
- 19 広報クイズ ほか
- 20 まいづるレシビ帖 ほか
- 22 舞鶴 若もん「ワーク&ライフ」
- 23 カメラアイ  AR動画
- 24 マイ健康通信
- 26 お知らせコーナー
- 32 まいづる元気人 花図鑑

今月の表紙



8月5日、姉妹都市提携55年を記念して来訪したナホトカのダンススクール「ファースト・ライン」の小中学生と東舞鶴高校の生徒が文化交流。日本のお菓子「みたらし団子」を作りました。

空間デザインに のめりこんだ中学生時代

【市長】 まず初めに今の仕事に就かれたきっかけを教えてください。

【嶋田さん（以下敬称略）】 小学校高学年のとき、初めて自分の自由にできる部屋を与えてもらって、毎週のようにレイアウトを変えていました。それが楽しくて高校を卒業するまでずっと続けていました（笑）。当時は、そういう空間をデザインすることが仕事として存在することも知りませんでした。

【市長】 中学校の頃には、もう空間デザインをしたいと思いますと思っていましたが、専門学校に行かれています。専門学校に調べていますか？

【市長】 時間もお金もない。そんな中で「どうせやるなら極めたい」と思ってイタリアへ行きました。

海外で働くこと

【市長】 語学の勉強も含めてイタリアへ行かれたんですね。まだご両親はデザインを学ぶことには反対されていたんですか。

【嶋田】 実は、高校の頃から海外に行きたいと思っていました。「そんなもの仕事にならないから、さっさと舞鶴に帰ってこい。行きたかったら自分でお金を稼いで行け」って（笑）。若い人たちにメッセージになるか分かりませんが、僕の場合は、反対されたらされるほどむきになるところがあったと思います。

【市長】 子ども達は、遊ぶところもいっぱいあるし何でもある。都会にあこがれを持つんですよ。でも、その分、人も多から必然的にライバルも多い。しっかり準備して行かないとやられてしまう危険性も高いってことも知らないといけない。でも、行くときは何も考えていないでしょうね（笑）。

【嶋田】 そうですね。洗礼は受けましたね（笑）。

【市長】 海外といっても、いろん

たんですね。

【嶋田】 芸術系に進学する友達に話を聞いて、東京の専門学校を見て回って決めました。3年制の学校で、学費だけは親に土下座して出してもらいましたが、生活費はバイトで稼いでいました。親はどうせ3年で首を上げて帰って来ると思っていたようです。

【市長】 卒業後、希望のアトリエで働くようになったのに、なぜ辞められたんですか。

【嶋田】 アトリエ系の事務所は仕事が過酷なんです。今でいうブラック企業よりも厳しいと思います。週に3日は徹夜で、日曜日もない。昔でいう丁稚奉公という感じですね。会社の人にはもつと遊べと言われましたが、

【市長】 卒業後、希望のアトリエで働くようになったのに、なぜ辞められたんですか。

【嶋田】 いろいろな国を見ましたが、デザインという点ではイタリアにかなわないですね。イタリアには格好いいですね。洗練されている。洋服にしてもそう。

【市長】 スポーツカーでもイタリアのものには格好いいですね。洗練されている。洋服にしてもそう。【嶋田】 色っぽいですね。それに上品です。どうやったらああいう線が出せるのか、分かりますか。うか勉強したい、自分のものになりたいという欲求がありました。イタリアでは、普通のサラリーマンでもシャツは自分の仕立て屋さんを持つって、オーダーメイドで作っているんです。自分の身体に合ったものを大切に着る。そんな国です。

【市長】 イタリアで仕事をしていて、日本人であることがプラスになったことやマイナスになったことはありますか。

【嶋田】 良かったことしかないですね。自分の親やその上の世代の方に感謝したいと思いました。日本人というだけで信頼度が高い。例えばアパートを借りるにしても、日本人はきれいに使うからと借してくれたり。日本人は礼儀作法というか協調性も高く、物事に対して真面目に取り

PROFILE 嶋田宣彦プロフィール

昭和45年生まれ、舞鶴市柵尾で育つ。府立東舞鶴高校卒業後、東京の専門学校で建築を学び、建築家のアトリエなどで5年修業し、25歳でイタリアへ。イタリアの建築事務所働き、その後フリーで活動。2008年に自社 Shimada Lab milano を設立。
主な作品は、フィアット社のオフィス、ドルチェ&ガッパバーナー青山表参道店、グッチ・ストックホルム店、ジュエリーメーカー Folli Follie（フォリフォリ）の青山店 など
現在は、東京オリンピックの選手村の内装デザインについても関わっている。

